



言語活動の充実に向けて

こうすればできる！ 言語活動を位置付けた授業改善

今、なぜ言語活動の充実が求められているのか…。

平成 20 年 3 月に改訂された学習指導要領では、総則の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に、「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」と明記されました。



学校の現状は…。

言語活動に関する研究を推進している都内公立小学校 94 校に、言語活動に関わる課題についてお聞きしました。

その結果、言語活動が、発表や話し合い中心になりがちであることや、言語活動の捉えの共通理解が難しく、「言語活動」自体が目的となっていることが分かりました。

〔参考〕

児童の課題

- ・国語…読解力
(特に、文章や資料の解釈、熟考・評価や論述)
- ・社会…基礎的・基本的な知識、概念
- ・算数…自分の考えを数学的に表現すること
- ・理科…科学的な思考力・判断力 など

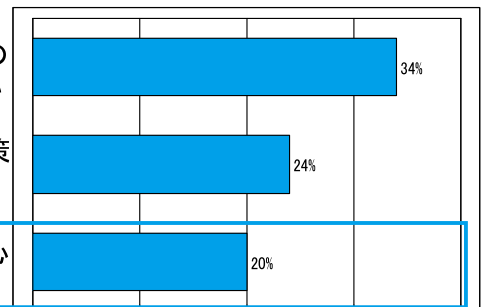


小学校における言語活動の課題

言語活動の捉えの共通理解が難しい

研究の具体的方策が見いだしにくい

発表や話し合い中心の授業になりがち



都内公立小学校94校 複数回答

本研究における言語活動の捉え

国語科で身に付けた技能を基に、各教科等の授業のねらいを実現するための「話す・聞く」「書く」「読む」活動全般を指し、「思考」「判断」「表現」を伴う活動

次のページでは、本研究で整理した「言語活動としての要素」と「言語活動を支える基盤」について説明します。

各教科等の授業のねらいを

本研究では、**自己の思考** **伝え合い** **思考のまとめ** を「言語活動としての要素」として整理しました。

また、**基本的事項の理解** **学習情報の獲得** を「言語活動を支える基盤」として整理しました。



言語活動としての
要素

自己の思考

伝え合い

思考のまとめ

【要素Ⅰ：自己の思考】

- 学習の課題に対して自分の考えをもつ。
- 自分の考えをどのように表現するか考える。

例えば...

- <社会> 2つの資料を比較して自分の考えをもつ。
- <理科> 予想を立て、実験の方法を考える。

【要素Ⅱ：伝え合い】

- 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる。

例えば...

- <国語> 場面の情景や人物の会話から想像した登場人物の気持ちを伝え合う。
- <算数> 課題を解決するための式を立て、答えを導くまでの考え方を班や学級で説明し合う。

【要素Ⅲ：思考のまとめ】

- 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。
- 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する。

例えば...

- <社会> 自分の考えたことに付け加えたり、修正したりしたことを、ポスターセッション等で表現する。

【基本的事項の理解】

- 学習内容の基本的事項を理解する。
- 各教科等に必要な用語や記号及び表現を理解する。

- ◆ 学習指導要領や各教科等の解説等で示された用語や記号及び表現を理解する。

【学習情報の獲得】

- 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。

- ◆ 実験や観察、調査、見学、資料などから読み取ったり、体験などを通して実感したりする。
- ◆ 学習内容をノートに蓄積(学習履歴)し、既習事項を想起する際に活用する。

言語活動を支える
基盤

基本的事項の
理解

学習情報の
獲得



実現するための授業改善

言語活動を充実させようとして、このような授業展開で困ってしまったことはありませんか？

発表や話し合いが目的になってしまった...

発表や話し合いのみの指導では、「基本的事項の理解」や「学習情報の獲得」が十分ではありません。そのため、児童は自分の考えを正しく伝えたり、相手の考えを正しく理解したりすることが難しくなってしまいます。

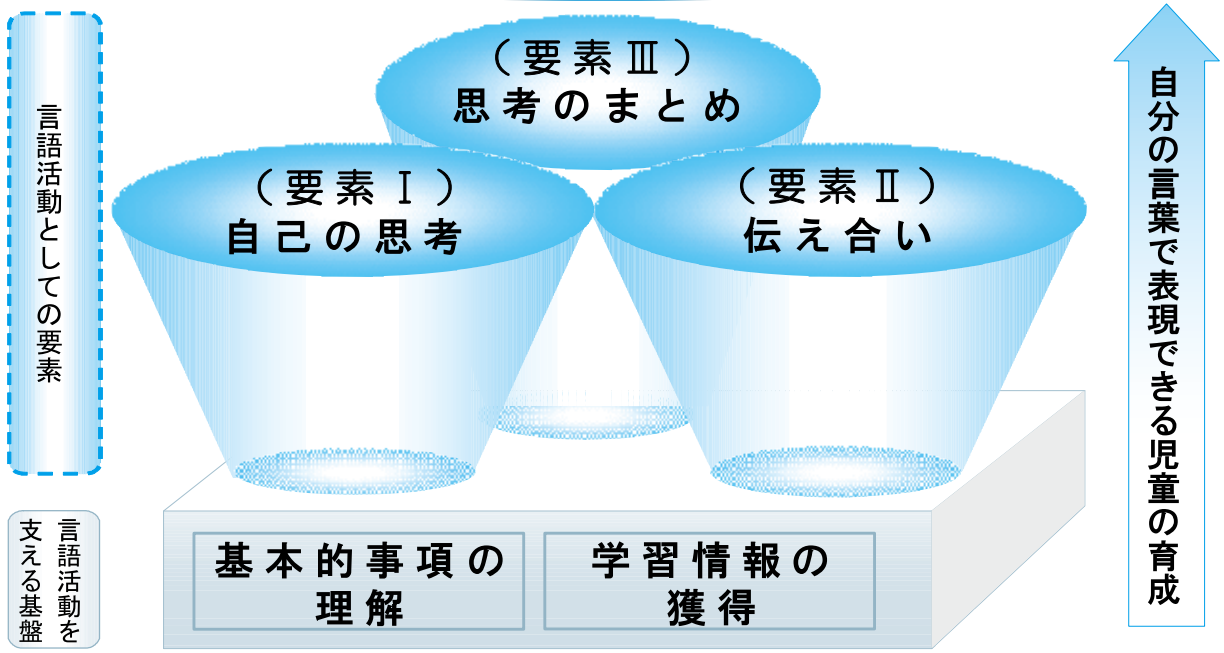
教え込みの授業になってしまった...

「基本的事項の理解」や「学習情報の獲得」のみの指導では、児童は、自分の考えを自分の言葉で正しく伝えたり、相手の考えを正しく理解したりすることが難しくなってしまいます。



各教科等の授業における言語活動を充実させるためには、「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」が一体となった学習活動を展開する必要があります。

各教科等の授業のねらいの実現



- ☆ 「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を、単元指導計画や1単位時間の指導計画に適切に位置付けます。
- ☆ これらの「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」は、各教科等の授業のねらいや内容によって、重点化したり、繰り返したりすることによって学びが深まっていきます。

次のページでは、「言語活動を効果的に位置付けた指導」を紹介します。

言語活動を充実させるための授業づくりでは、単元指導計画の中に言語活動を意図的・計画的に位置付けた指導を行うことが重要です。

社会科 第4学年の例

単元名：「玉川兄弟と玉川上水」

時	ねらい	主な学習活動及び内容	重点とする要素及び基盤
1	学習の進め方を知り、資料を調べることを通して、千川上水に関心をもつ。	練馬区には千川上水があることについて知り、資料を使って調べ、疑問などを出し合う。	学習情報の獲得 要素Ⅱ 伝え合い
	千川上水のもとになった玉川上水に関心を持ち、学習問題をつくる。	千川上水のもとになった玉川上水について知り、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	基本的事項の理解 学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考
学習問題 玉川上水はどのようにして作られたのでしょうか。			
3	資料を基に、水が必要になった背景や、当時の人々の気持ちについて考える。	江戸時代、水はとても貴重であったことを知り、玉川上水が必要になった理由について調べる。	基本的事項の理解 学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考
4	地形を生かして水路が決められたことについて、調べることを通して玉川兄弟の工夫や努力について考える。	玉川上水の水路はどのようにして決められたのかを調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考
5	開削工事に携わった人々の工夫や努力について考える。	工事の様子を調べ、開削工事に携わった人の工夫や努力に気付く。	要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い
6	資料を基に、江戸の町に玉川上水の水が配られ、江戸の人々の暮らしが変化したことについて考える。	江戸の町にどのようにして玉川上水の水が配られたか、また、人々の暮らしがどのように変化したかを調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い
7 8	資料を比較し、分水が増えたことから、新田が開発され、人々の暮らしが大きく変化したことについて考える。	玉川上水から引かれた分水と新田開発について調べる。	学習情報の獲得 要素Ⅰ 自己の思考 要素Ⅱ 伝え合い
9 10 11	学習問題を振り返り、物語を作成して、学習したことを自分の言葉で表現する。	学習したことを生かして、玉川上水物語を完成する。	要素Ⅲ 思考のまとめ

つかむ

調べる

まとめる

言語活動を充実させる授業づくり

① 各教科等の単元の目標を設定する。

「言語活動関連一覧」の各教科等の目標や、各学年の目標、内容を確認する。

② 目標を基に学習活動を定め、単元指導計画を作成する。

「言語活動関連一覧」の「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を参照し、単元全体を見通して、どの段階で、どのような言語活動を位置付けるかを検討する。

③ 1単位時間の学習展開を作成する。

「言語活動関連一覧」の「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を参照し、1単位時間ごとの学習を組み立てる。

授業のねらいを実現するために必要な言語活動が位置付けられているか、言語活動が目的化していないかを確認する。

次のページでは、単元指導計画を基にした1単位時間の学習指導の例を紹介します。

1 単位時間の学習指導の例

学習活動に「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」を位置付けると、各教科等の授業のねらいを実現するための指導の手だてが具体的になります。

社会科 第4学年の例

単元名：「玉川兄弟と玉川上水」

第7時：資料を比較し、分水が増えたことから、新田が開発され、人々の暮らしが大きく変化したことについて考える。

主な学習活動

① 既習事項を想起する。

② 2つの資料を比べて、比較する視点に基づいて、自分の考えをノートに書く。

<発問例>

2つの資料を比べて、比較する視点に基づいて、自分の考えをノートに書きましょう。



③ 自分の考えを互いに伝え合う。

<発問例>

2人組になり、それぞれの考えを伝え合いましょう。友達の考えを聞いて、付けたしやアドバイスをしましょう。



④ 学習したことを振り返り、自分の考えを深める。

<発問例>

キーワードを使って、話し合ったことや、付け加えたことが分かるように学習のまとめをしましょう。



要素

基盤

指導の手だて

学習情報の獲得

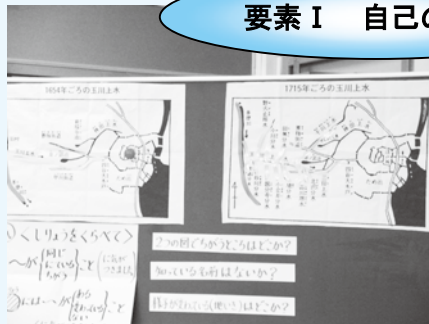


ノート等を活用して、既習事項を確認させる。

要素Ⅰ 自己の思考

重点とする要素

考える時間を適切にとる。



要素Ⅱ 伝え合い

重点とする要素

根拠を明らかにしながら分かりやすく説明させる。



要素Ⅲ 思考のまとめ

学習を通して分かったことなど、自分の言葉で、まとめさせる。



次のページでは、「言語活動関連一覧」(社会科)の例を紹介します。

言語活動関連一覧(社会科)

社会科の目標	社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	●言語活動に関する「改善の具体的事項」	生活科の学習を踏まえ、児を養い、身に付けた知識、の際、作業的、体験的な学それらを活用して観察・調しながら再構成する学習や
		●言語活動に関する「改訂の要点」	これまでの「調べたこと」
社会科の目標	内容	言語活動における指導の	
第3学年及び第4学年	(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。	(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。	① 知識・技能を活用して 観察・調 (学習情報) ・ありのままに観察する。 ・数や量に着目して調査する。 ・観点に基づいて観察・調査する。 ・他の事象と対比しながら観察・調 ・まわりの諸条件と関係付けて観察
	(2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。	(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。	② 各種の資料から必要な 情報を集 った ことを的確に 記録 する。 (学習情報) ・必要な資料を収集する。 ・資料から必要な情報を読み取る。 ・資料に表されている事柄の全体的える。 ・目的に応じて必要な情報を判断し、
	(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。	(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。	③ 比較・関連付け・総合 しながら (要素 I) ・比較によって、特色について考え ・結び付きについて考える。
		(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。	④ 考えたことを自分の言葉で まと (要素 I) ・相手意識や目的を明確にもつ。 ・特色や事象の関連を考える。 ・絵地図や白地図を活用し、違いな表現する。 ・説明し合い、考えを深めたり、確する。
		(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。	
		(6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。	

※算数科、理科についても言語活動関連一覧

童の発達の段階に応じて、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深め、社会的な見方や考え方概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視して改善を図る。そ
習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、①学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、
査したり、②各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、③比較・関連付け・総合
④考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。

に「考えたこと」を加え、「考えたことを表現する」ことを一層重視

重点	「言語活動としての要素」及び「言語活動を支える基盤」 ☆主な内容 ○指導上の留意点	国語科で培う能力
査する。 の獲得)	基本的事項の理解 学習内容の基本的事項を理解する。 各教科等に必要な用語や記号及び表現を理解する。 ☆ 用語・表現の理解 ○ 授業のねらいを実現するために地図や各種の具体的資料・名称等の意味やその使い方を指導している。(用語・表現の理解) ○ 単元の学習の内容を振り返ることができるノート指導をしたりワークシートを工夫したりしている。	話すこと・聞くこと ○ 相手や目的に応じ、調べたことなどについて筋道を立てて話す能力。 ○ 話の中心に気を付けて聞く能力。 ○ 進行に沿って話し合う能力。
査する。 ・調査する。 めて読み取 の獲得)	学習情報の獲得 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。 ☆ 既習事項・学習履歴の活用 ☆ 観察、調査、資料活用、体験、記録 見学 ○ 単元の目標に沿った活動や資料を準備している。 ○ 観察・調査や体験等のねらいや視点を踏まえた指導をしている。 ○ 白地図や地球儀を必要に応じて活用している。	書くこと ○ 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係などに注意して文章を書く能力。
な傾向を捉 記録する。 再構成する。 ・要素Ⅱ) る。	自己の思考(要素Ⅰ) 学習の課題に対して自分の考えをもつ。 自分の考えをどのように表現するか考える。 ☆ 分析、整理、予想、考察、論述 ○ 思考をする十分な時間を取っている。 ○ 書く目的や視点を児童に十分に理解させている。 ○ ノートやワークシートに考えを書く指導を行っている。 ○ 考え方(比較・関連付け・総合)を踏まえた指導をしている。	読むこと ○ 目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力。
め、伝える。 ・要素Ⅱ) ど明確に かにしたり	伝え合い(要素Ⅱ) 他者との伝え合いを通して多様なものの見方・考え方に触れる。 ☆ 発表、討論、話し合い、説明、報告 ○ 伝え合う活動の目的は単元の目標や授業のねらいに沿っている。 ○ 伝え合いから学ぶ視点を児童に伝えている。 ○ 伝え合う方法を具体的に示している。 ○ 伝え合うための場と時間を確保している。	
	思考のまとめ(要素Ⅲ) 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する。 ☆ まとめ、レポート、発表、振り返り ○ 学習情報や伝え合いで得たことを基に、自分の考えをまとめるように示している。 ○ 児童の振り返りの評価や教師の価値付けは単元の目標(社会的な見方や考え方を養うなど)に沿っている。	

次のページでは、校内研究会における「言語活動の組織的な取組例」を紹介します。

を作成しました。詳しくは東京都教職員研修センターホームページで御覧ください。

言語活動の組織的な取組例

授業研究や校内研修会を工夫し、教師自身も思考力・判断力・表現力を向上させ、授業改善を図りましょう。

1 授業研究の工夫（１） 授業参観の視点を設定しましょう。

実施する研究授業のねらいを共通理解して指導計画を立てます。そのねらいを踏まえた授業参観の視点を設定し共有することで、その後の校内研修会において意見が出しやすくなり、授業者の授業改善につながります。

要素	教師を観る視点	児童を観る視点
(Ⅰ) 自己の思考	児童が思考する時間を適切に確保しているか。	学習に必要な用語や資料を活用し、自分の考えをもつことができているか。
(Ⅱ) 伝え合い	机間指導などにより伝え合いの状況を把握し、適切な支援をしているか。	一人一人が自分の考えを自分の言葉で伝え、他者の考えも受け止めているか。
(Ⅲ) 思考のまとめ	伝え合いにより得た情報から、自己の思考を深められるような学習活動を工夫しているか。	伝え合いにより得た情報から、自己の考えを深めたり、再構築したりすることができるか。

2 授業研究の工夫（２） 児童の言語活動の観察記録(授業記録)をとりましょう。

単に発言回数などを記録するのではなく、自分の考えを構築しているか、互いの考えを伝え合っているかなど、児童の学習状況が言語活動として適切かどうかを把握します。参観者は座席表などを活用して学習の達成状況を記録します。

【座席表を活用した授業記録の例】

	A班	B班	C班
□	①	①	□
②	① ②	①	①

座席表中の記号
 ①→1の解き方でできた
 ②→2の解き方でできた
 □→自力で解決できなかったが伝え合いで理解した

伝え合いで1の解き方と2の解き方を共有できた班の例

2の解き方の伝え合いができない班の例 →2の解き方の支援が必要

1の解き方も2の解き方も伝え合いができない班の例 →伝え合いをする際の構成員に配慮するなど工夫が必要

3 校内研修会の工夫 積極的に意見を出し合う工夫をしましょう。

〈工夫例〉

研究授業では、視点を明確にして授業を参観します。

参観者は、授業参観の視点について、授業者の「良かった点」と「改善した方がよい点」を、2色の付箋紙(や短冊)にメモします。

校内研修会では、教科別や学年別の分科会ごとに分かれて、それぞれの分科会で付箋紙(や短冊)を色別に集め、意見を出し合います。
 (模造紙などを活用すると可視化でき、意見が出しやすくなります。)

全体会で発表し合い、授業改善のポイントを明確にし、共有します。



4 言語環境の工夫 児童の言語環境の整備について、校内で共通実践しましょう。

言語環境をどのように工夫していますか？



単位：校
 言語活動に関する研究を推進している都内公立小学校 94校に調査
 (複数回答)

- ノート指導の充実を図ることで、児童が既習の学習内容(学習履歴)を活用して自己の思考につなげることができます。
- 校内で話型の指導を共有し、教室に掲示して、児童の言語活動の基礎を作ります。
- 工夫した板書が、児童の理解を促します。
- 児童の日常会話について、教師が共通理解して指導に当たることも大切です。
- 児童のモデルとなることを意識して、教師の言葉遣いを整えることも大切です。

問い合わせ先 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
 東京都文京区本郷 1-3-3 電話 03-5802-0319 FAX 03-5802-2090
 URL <http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>